

平成26年度 グッドジョブ賞 受賞者一覧

番号	所属	受賞者	概要
1	総合政策部 政策統計・情報課 (長寿福祉課)	主事 佐々木 駿 総括主任 村中 孝雄	「将来人口シミュレーションツール」 ～2100年までの人口シミュレーションをエクセルで容易に試算可能に～ <ul style="list-style-type: none"> 県と市町毎に、合計特殊出生率や社会増減を自由に設定し2100年までの将来人口を推計したり、目標人口達成のために必要な出生率等を推計できる試算表をエクセルで制作 国の人口推計ツールでは、社会増減の自由設定や目標人口達成のための出生率等の推計機能がないため、県および市町の職員が、人口減対策等政策立案における重要な基礎資料算出のため活用(地方創生に係る「地方版総合戦略」を策定するにあたり、当ツールを活用し「福井県人口分析報告書」を作成中)
2	安全環境部 海浜自然センター	主任 清水 富雄 大野 豊 主査 仲野 大地	「海浜自然センターの誘客拡大」 ～ユニークな体験メニュー、他団体との連携企画により入館者大幅増～ <ul style="list-style-type: none"> 人工イクラ作り体験や、貝殻や海藻を使った万華鏡作り、海の生き物顕微鏡観察など、個人向け体験講座を14種類新設して毎日対応し、また館内クイズラリーを実施し、利用者の滞在時間を拡大 衛生環境研究センター、若狭図書学習センター等と企画し「環境講座」「児童向けのおはなし会」を海浜自然センターで開催し、また、出前体験講座を年間通じて実施 保育園、海上保安署、子育てクラブ等による海に係る絵画や写真の展示会の実施、漁家民宿に声をかけ特産品販売会を開催するなど地域の活性化に貢献 (入館者数：110,103人(2月末、24年度比1.85倍) 個人体験講座利用者：5,070人(2月末、24年度0人))
3	健康福祉部 健康増進課	企画主査 手賀 晴信	「子どもの予防接種の広域化」 ～関係機関と連携し、居住する市町に関わらず県内どこでも子どもの定期予防接種が受診できる仕組みを構築～ <ul style="list-style-type: none"> 学校等での集団予防接種が廃止され、かかりつけ医等による接種になった平成6年予防接種法改正以降、居住する市町内でしか受けられなかった子どもの定期予防接種を、居住外の市町でも接種できるよう関係機関(市町や医師会)との調整に尽力 調整の結果、県医師会が各市町と予防接種に係る契約を結ぶことにより、子どもの定期予防接種を県内173の指定医療機関どこでも受けられるようになった。 (当初見込：月100件→利用実績：月300件超)
4	産業労働部 労働政策課	主任 坪田 佳恵	「若い女性のUターン促進」 ～県内企業の女性社員をスカウトマンとして活用し県外進学女子学生のUターンを促進～ <ul style="list-style-type: none"> 県内企業16社を訪問し、県内企業で働く女性社員を「ふくいのがん女子応援員」として委嘱 東京、大阪等県外で応援員と女子学生との交流会を開催し、学生に対し本県で働くことの魅力を、各会社の現状や結婚、出産、子育てなどの実体験を交えながらPR 県内で「ふくい女性活躍支援企業」への企業見学会を開催し、女子学生に対し県内企業の魅力を伝えるなどUターン者増加につなげる仕組みを作り、人口減対策推進に貢献 (応援員：12企業、25人(目標15人))
5	観光営業部 観光振興課	主査 坪田 浩司 吉川 英児	「近代化遺産周遊バスツアーの運行」 ～トンネル群や近代化遺産を活用した新たなバスツアーを開発し人気～ <ul style="list-style-type: none"> 旧北陸本線トンネル群や近代化遺産を周遊する新しいバスツアーを企画し催行 トンネル群、南越前町の今庄宿や右近家、敦賀市の人道の港「敦賀ムゼウム」等を組み合わせることにより、地理的にも歴史的にも広がりのあるバスツアーを企画催行 昼食に当時の駅弁を再現して「復刻弁当」を企画するなど旅の雰囲気を盛り上げるよう工夫 (ツアー催行数：12回、平均乗車率：90.4%、参加者：計354名)
6	農林水産部 生産振興課	主任 徳堂 裕康 松井 一貴 山元 秀明 主査 門 倫世 主事 和田 陽介 中村 岳史	「「コシヒカリを生んだ福井県」全国キャラバン」 ～調理設備を備えたキッチンカーで全国を巡り試食会を通じてコシヒカリ発祥の地をPR～ <ul style="list-style-type: none"> コシヒカリを生んだ福井県をPRするため、全国47都道府県をキッチンカー等で巡りショッピングセンター等で県産コシヒカリのご飯とみそ汁の試食会を行うキャラバンを実施(9月～11月) 県内外の関連企業等を訪問(象印マホービン(株)、キッコーマン(株)等)、事業への協力について交渉し、37の企業等から物資等(IH炊飯ジャー、和食用調味料等)の協賛 各地の報道機関にキャラバンの周知を図り、各地の新聞や首都圏のフリーペーパーにキャラバンの様子が紹介され、福井県がコシヒカリ発祥の地であることを全国に広くPR (走破距離：8,900km ご飯の提供：12,300食 販売：福井米13,000kg、新聞31社約1,030万部、首都圏のフリーペーパーなど約153万部)
7	農林水産部 福井農林総合事務所	企画主査 藤極 伸太郎	「林業作業道の計画策定を効率化するソフトを開発」 ～作業道ルートと間伐収支の計画策定ソフトを開発し、地域の間伐材生産量を増加～ <ul style="list-style-type: none"> 地形図と間伐範囲の予定を入力すれば、木材の搬出量や事業収支の概算が自動計算できるソフトを開発し、効率的な間伐事業の実施が可能 ソフトを活用する組合(福井市森林組合)では、作業道計画の策定時間が短縮され、収支効率がよい間伐エリアを設定できたことで間伐材生産量が増大(25年度9,168㎡→26年度見込12,000㎡) 26年度林業普及指導員全国シンポジウムで発表し、林野庁長官賞最優秀賞を本県職員として初受賞
8	土木部 都市計画課	主任 廣部 雄一 主査 山本 理	「屋外広告物の規制見直しによる良好な景観づくり」 ～屋外広告物の設置状況を実際に現場へ行き調査するとともに、一般県民や団体等の意見を幅広く収集して規制基準(案)を作成～ <ul style="list-style-type: none"> 自然、歴史、観光地、田園、里地里山等の良好な景観づくりのため、屋外広告物条例の設置基準の見直し(案)を作成 地域ごとの景観に応じた規制内容を検討するとともに、新基準を導入した場合の社会的影響を分析するため、調査対象約4,700件の広告物について実際に主な規制地域の現場へ行き、設置状況や景観への影響を直接見て判断し推計抽出 規制基準を見直すにあたり、一般県民向けアンケート調査、医師会等関係団体に対するアンケート調査、広告主や広告業者との意見交換会を開催し、景観形成や規制内容に対する意見を踏まえて基準(案)を作成
9	教育庁 学校教育政策課	主任 向 誠隆 朝倉 剛司 企画主査 戸羽 嘉和	「「福井の教育」の全国発信」 ～福井の教育を紹介する新書の発行と全国的なフォーラムの開催により高い教育力をPR～ <ul style="list-style-type: none"> 大阪大学大学院志水教授に福井の教育を紹介する新書「福井県の学力・体力がトップクラスの秘密」の出版を呼びかけ実現(10月10日発行) 志水教授が執筆のために行う現地調査に同行し、学校やPTA、公民館等との日程や調査内容の調整に協力 「福井教育フォーラム」を開催(10月16日～17日)、志水教授の講演や県内小中高校の授業を公開するなど福井の高い教育力を全国からの参加者に発信 (福井教育フォーラム：約720人参加(県外41都道府県約550人) 全国から約1,500人の教育関係者が視察)